

会報

No. 73

平成19(2007)年8月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL (075) 762-4655

学びのフィールドに

京都府立図書館長 松田 定

人は、難題を解決しようとする時、また新しいことを始めようとする時、何から入っていくものでしょうか。

専門家、その道の達人、同じ悩みを抱える友人など「人」を介して進む人、関係する本や情報を漁る人、まずはインターネットに向かう人もいるかもしれませんが、道具選びから始めたり、時には問題に立ち向かう服装・スタイルから考える人もいるかもしれません。

いずれにしても課題解決や新たな挑戦には、一歩踏み出すきっかけと勇気、そして方向性を与えてくれるものが重要です。

今日、複雑多様化する社会において、多くの人たちが、子育て、医療・健康、福祉・介護、ビジネスなどたくさん課題に直面しています。



また、団塊世代の大量退職時代を迎え、会社などの組織のミッショ

ンから解放された、まだまだパワフルな人たちが、自分自身のミッションを模索しようとしています。あるいは、不透明で不確実な時代

にあつて「生き方・在り方」のヒントを求めて書物の中をさまよう人も少なからずあるでしょう。

このような中、図書はもちろん雑誌記事、新聞記事、インターネット上の情報等多様な最新情報が集積する図書館への期待が増してくるとともに、今後図書館の果たす役割はますます大きくなっていくものと思われま

す。ところで今春、全国の図書館関係者等が集まるある会合で、「今、全国の公立図書館は、貸本型と課題解決支援型に二極分化しつつある。」とあつたのは衝撃的でした。

多分に警鐘を鳴らす意味で端的な表現になつたものと思われま

すが、私たちは、この四月から京都府立図書館でお世話になることになりました。大きく変わろうとする社会状況の中、図書館を巡る状況も厳しいものがありますが、本館の運営基本方針（①府内の中核的図書館として、図書資料・情報の総合的活用を図ります。②総合目録ネットワークや各種電子媒体を駆使して、迅速かつ高度な図書館資料・情報サービスを行います。③図書館資料・情報サービスによる生涯学習環境の充実をめざして、役割分担を踏まえた市町村支援を行います。④総合資料館との連携により、京都らしさのある図書館資料・情報を全国に発信します。）を胸に刻んで、その達成のため尽力していきたくと思っております。

特に、南北に長い京都府にありましては、府内全域へ均質なサービスを進めることは極めて重要な課題です。今後とも、市町村の皆さん方と緊密に連携する中で、円滑な図書資料・情報の提供に努めてまいりたいと考えておりますのでよろしくお願ひ申し上げます。

平成十九年度 京都府図書館等連絡協議会定期総会開催

平成十九年度京図連協定期総会が、平成十九年四月十九日（木）午後一時三〇分から、府立図書館において開催されました。

まず、開会行事として、小山雄一会長のあいさつ、岡村光章国立国会図書館関西館次長、水江尚利京都府教育庁指導部社会教育課長からの来賓あいさつ、松田定京都府立図書館長の歓迎あいさつがありました。

その後、平成十九年度の理事紹介があり、議事に入りました。

総会の後には、図書館業務に永年勤続し、その功績を認められた十七名の方の表彰、並びに、『これからの図書館像』を実現するために「テーマに、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科教授の葉袋秀樹氏から御講演をいただきました。（詳細は、次ページ）

＊総会議事

総会は、奥西安己京田辺市立中央図書館長を議長に選出し、加盟館

四十九館中、出席二十五館・委任状二十二館・欠席二館により、総会が成立していることを確認した後、議事が開始されました。

まず、事務局から、平成十八年度会務及び決算報告がされました。監事の仁科晴夫八幡市立八幡市民図書館長から監査報告をいただき、会務報告・決算報告ともに承認されました。

その後、平成十九年度事業計画（案）及び予算（案）が提案され、それぞれ承認されました。

最後に、協議と採決が行われ、全議案の承認を確認し、総会が閉会しました。

＊会務報告・決算報告

会務報告では、京都市参加により、K-Libnetが府内全市町村参加となったこと、また、京都府図書館総合目録は城陽市を皮ぎりに横断検索館となる図書館が増加したこと、府内市町合併による中央・分館体制の増加、インターネット予約実

施館の増加など図書館の動向や相互協力の増加が報告されました。

次に、各専門委員会の活動として、研修研究委員会からは三回の実務研修会（子ども読書活動指導者研修会中部会場を含む。）について、相互協力委員会からは、拡大相互協力委員会での府内で一冊の図書の扱いやインターネット取寄せ申込みサービス、実務担当者会での府内図書館の協議について、さらに、広報委員会からは三回の会報発行についてそれぞれ報告されました。

決算報告では、各専門委員会委員への旅費の支出等が報告されました。

＊事業計画・予算（案）

事業計画では、「子どもゆめ基金助成」事業が終了しそれによらない研修事業を進めること、K-Libnetを利用した相互貸借の円滑な運営と大学図書館等との連携に向け努力することなどが提案されました。予算では、市町村合併に伴う分担金等の減少による提案がされました。

表彰者一覧（敬称略）

木下 義高（京都市中央図書館）

- 永島 博子（京都市中央図書館）
 - 本橋千世子（京都市醍醐中央図書館）
 - 岡根 慶子（京都市醍醐中央図書館）
 - 入江 尚子（京都市醍醐中央図書館）
 - 東條 朝一（京都市吉祥院図書館）
 - 青木めぐみ（京都市西京図書館）
 - 神田 千砂（京都市向島図書館）
 - 西村恵里香（宇治市中央図書館）
 - 志賀 清泰（宇治市西宇治図書館）
 - 重光美弥子（宇治市西宇治図書館）
 - 中西美智子（城陽市立図書館）
 - 岸田 敦子（亀岡市立図書館）
 - 古瀬 妙子（亀岡市立図書館）
 - 小山喜和加（亀岡市立図書館）
 - 湯浅 真弓（京丹波町中央公民館図書室）
 - 柴田 容子（京都府立図書館）
- 受彰者の皆さま、おめでとうございました。



職員表彰の様

『これからの図書館像』を

実現するために (概要)

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科教授 葉袋 秀樹

二〇〇六年四月、「これからの図書館の在り方検討協力者会議」から『これからの図書館像―地域を支える情報拠点をめざして―(報告)』が発表されました。この報告は「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(二〇〇一年)施行後の社会や制度の変化、新たな課題等に対応して、これからの図書館運営に必要な新たな視点や方策等について提言を行っています。

この報告では、図書館職員や利用者だけでなく、地方公共団体の議員・職員や地域住民等へも図書館の利用と改革を広く呼びかけています。

そして、近年の予算の減少傾向、図書館間の格差のほか、図書館や司書が単に「本を借りるところ」「貸



出手続きをする人」と認識されがちな現状を指摘し、これまでの貸出中心の活動に加えて、今まで十分でなかったレファレンスサービス等の充実に提案しています。

さらに、これまで一般成人として一括りになっていたサービス対象を、行政・学校・ビジネス・職場産業等の職業や、法律・医療・子育て等の生活上の課題によって分類し、これらの対象別に、行政支援、子育て支援等の体系的で一貫した各種支援サービスの実施を提案しています。

これまでの図書館の資料提供は、本と新刊雑誌が中心でしたが、これからは、それに加えて、地域の情報拠点として、雑誌・新聞記事、インターネット上の電子情報源、地域のチラシ・パンフレット、さらに、関係機関と連携した講座やセミナー等の多様な資料と情報を提供します。これらの提案は、町立図書館を含む全国各地のさまざまな図書館の事例をもとに組立てられており、実践事例も紹介されているため、十分実現が可能です。

これからの図書館の改革の中心は、雑誌記事と新聞記事の提供によって、利用者の課題解決、調査研究の要求に依っていくことです。例えば、「指定管理者制度」(二〇〇三年九月施行)をNDL・OPACで検索すると、単行本の書名に初めてその言葉が出てくるのは、二〇〇四年十月ですが、雑誌記事の標題では二〇〇三年十一月です。そして二〇〇四年九月までに七十一件もの記事がありました。このように、単行本に比べて、発表が早いのが雑誌記事の特徴です。そのほか、文献、著者の数が多く、主題が細かいという特徴もあります。

したがって、ある主題について本がない場合でも、その代わりに、雑誌記事を提供できます。自館に雑誌のバックナンバーがなくても、インターネット上に公開されている国立国会図書館の雑誌記事索引とコピー郵送サービスを利用すれば、郵送日数ばかりですが、地方の小図書館でも雑誌記事を提供できます。

このように、本だけでなく、求めるテーマに関する雑誌・新聞記事やインターネット上の情報源を提供することによって、仕事や生活上の課題をかかえた人々に必要な情報を提供することができず。

このためには、レファレンスサー

ビスの体制の整備が必要です。これまでは、レファレンスデスクがあっても、奥まった参考室など目立たない場所に置かれていました。これからは、一階の入口の近くに、貸出カウンタートとは別にレファレンスデスクを置いて、インターネット端末と司書を配置することが必要です。これだけで、かなりレファレンスサービスの体制が整い、利用者にもサービスの存在や司書の役割が知られるようになります。

このようなサービスの改善をもとに、外部の組織・団体との連携を深め、職員の能力向上に努め、図書館の存在意義をアピールすることによって、図書館は、課題解決に役立つ所として評価されるようになっていくのではないのでしょうか。

最後に、これらの改革は、これまで主に読書のために図書館を利用してきた人々にとっても、さまざまな点でサービスの改善をもたらすことを指摘しておきたいと思えます。

この報告は、図書館の実情に応じて、どの図書館でも、段階的に改善していけるように工夫されています。ぜひ、この報告を活用して、それぞれの図書館の改革に取り組んでいただきたいと思います。

読書ボランティア 養成支援事業

～読書ボランティア養成講座の開催～

京都府図書館等連絡協議会
〈京都府教育委員会委託事業〉



京都府図書館等連絡協議会は京都府教育委員会から委託を受け、平成十九年度読書ボランティア養成支援事業を実施します。

この事業は、府内における子どもの読書活動の一層の推進を図るた

め、学校や図書館等で活躍する読書ボランティアの拡充を図ることを目的としています。

内容は、読書ボランティア養成講座の開催及び修了者に対する府や市町村などのボランティア登録の紹介です。

実施は、京都府図書館等連絡協議会が主催するほか、市町村図書館等と共催で実施をします。

主催事業については、共催事業における養成講座の開催地域を考慮し、北部地域での開催に向けて、現在、研修研究委員会において、講座内容の検討が行なわれています。

また、市町村図書館等との共催事業については、六月上旬に京都府図書館等連絡協議会の加盟館あてに要項等の通知を行ったところ、五館の申請があり、七月上旬に以下の五市町図書館等との共催を決定したところです。

講座については、これまでから市町図書館等が主催してこられた事業の充実を図った講座や、新規に取組をされた講座がありますが、内容は、手袋人形の制作・実践を取り入れるなど、工夫を凝らした講座になっていきます。

★共催実施市町図書館等

- 宇治市中央図書館
- 木津川市立中央図書館
- 京丹波町中央公民館図書館
- 綾部市図書館
- 福知山市立図書館中央館

合併後の状況と

今後の取り組みについて

木津川市立中央図書館長 原田 茂弘

桜の蕾が色づく、平成十九年三月十二日に木津町・加茂町・山城町の三町は合併し、人口約六六、〇〇〇人の木津川市が誕生して、早や五ヶ月余り経過しました。

図書館につきましてもこの合併によりまして三図書館と一分室の業務システムを統合ネットワークで結び、一枚の図書館利用カードで各館において、ほぼ均質なサービスが提供できるようになり、利用可能な資料も二四一、〇〇〇冊となりました。

資料の貸出、返却、検索が各館で可能となった為、徐々に貸出冊数と伴に利用者も増加している反面、各館に資料返却ができることにより、新たな業務として返却資料やリクエスト資料の回送業務が生じていま

す。

統合に際し、三館の業務内容の統合調整、新業務システムの操作研修等を行い、万全を期したところですが、予期せぬ問題が少なからず発生し、職員の献身的な努力により、業務がようやく軌道に乗ったところ

す。業務統合して統一性のある運営を求められる一方で、多様な市民要望を受け、それぞれの館が地域性を生かした運営も必要となってきました。

合併して日も浅く、課題も多く各館で従来から実施している取り組みを行っていている状況ですが、今後の取り組みとしてインターネット予約の早期実施・学校との連携強化・レファレンスの強化・読み聞かせの充実・イベント会場への移動図書館バスの配車・ボランティア養成講座等の施策を進める予定であります。

財政が厳しい状況下ですが、全職員が一丸となり各館が地域を支える情報拠点となるよう、市民ならびに関係機関のご協力とご指導を得ながら地域の特色を生かし、創意工夫を凝らした図書館事業を展開して行きたいと思っております。



平成十九年度

京図連協役員体制

- 会長 小山 雄一(精華町立図書館)
- 副会長 山本 明宣(舞鶴市立西図書館)
- 理事 河原 正夫(京都市伏見中央図書館・京都市醍醐中央図書館)
- 田中 元美(京都市立図書館)
- 西村 千秋(長岡京市立図書館)
- 山崎 健藏(京都市北図書館)
- 小山 豊嗣(久御山町立図書館)
- 久野村観光(宇治田原町立図書館)
- 粟路 静夫(南丹市立中央図書館)
- 塩見 裕(与謝野町立図書館)
- 松岡 豊美(京丹後市立図書館)
- 監事 長谷川幸治(京都市西京図書館)
- 仁科 晴夫

- 顧問 松田 定(京都府立図書館)
- 辻 逸司(京都府立総合資料館)
- 中西 進(京都市中央図書館)
- 事務局(京都府立図書館)
- 森永 健三(事務局長)
- 中松 幸博(事務局員)
- 永木 博美(事務局員)
- 藤本 裕行(事務局員)

平成十九年度

専門委員会委員一覧

- ◎研修研究委員会
- 委員長 河原 正夫(京都市伏見中央図書館・京都市醍醐中央図書館)
- 委員 岡本三容子(向日市立図書館)
- 平田 浩三
- 石川 佳奈(木津川市立山城図書館)
- 栗林さよ子(亀岡市立図書館中央館)
- 大西 敏之(南丹市立中央図書館)
- 福岡 志延(福知山市立図書館中央館)
- 竹之内英子(舞鶴市立西図書館)
- 瀬戸真由美(与謝野町立図書館)
- 藤原恵美子(京丹後市立峰山図書館)
- 榎並 智幸(京都市下京図書館)
- 小西 理恵(京都ライトハウス情報ステーション)
- 平居 千明(京都府立総合資料館)
- 植本 和秀(京都府立図書館)
- ◎相互協力委員会
- 委員長 田中 元美(京都府立図書館)
- 委員 五十棲千景(長岡京市立図書館)

- 西村恵里香(宇治市中央図書館)
- 新築 猛(久御山町立図書館)
- 辻 玲子(京田辺市立中央図書館)
- 小谷 光幸(井手町図書館)
- 森山 貴子(精華町立図書館)
- 岡山 理恵(舞鶴市立東図書館)
- 吉田麻由美(宮津市立図書館)
- 田辺 聖子(京丹後市立あみの図書館)
- 上田まゆみ(京都市中央図書館)
- 伊東 泰子(京都府立総合資料館)
- 足立 良子(京都府立図書館)
- ◎広報委員会
- 委員長 西村 千秋(長岡京市立図書館)
- 委員 山中真理子(城陽市立図書館)
- 鈴木 琢也(宇治田原町立図書館)
- 立藤 江理(綾部市図書館)
- 林川 明子(京都市右京図書館)
- 楠 久美(京都府立総合資料館)
- 永木 博美(京都府立図書館)

平成十九年度研修計画

現在分かっている範囲の研修計画をお知らせします。

◎第九十三回全国図書館大会

期日：十月二十九日(月)～三十日(火)

開催地：東京都

テーマ：つなげよう未来へ、ひらく現在を 図書館は力ー文化が集まる、情報が集まる、人が集まるー

◎全国公共図書館研究集会

*総合・経営部門 期日：九月二十七日(木)～二十八日(金)

開催地：青森県青森市 テーマ：ライブラリアンは何ができるか！未来をつくる図書館に向けて

*サービス部門 期日：十一月十五日(木)～十六日(金)

開催地：沖縄県那覇市 テーマ：「創造」未来の図書館サービス

―守礼の邦で英知の結集を― ◎図書館地区別研修近畿地区 期日：(未定)

開催地：奈良県(予定) ◎近公図研究集会(兼児童奉仕部門) 期日：十一月三十日(金)

開催地：大阪府

第十六回京都図書館大会 インターネットでレファレンス

日時 平成十九年九月五日(水) 十時二十分～十六時三十分

(受付十時)

会場 同志社大学(今出川校舎)

明德館 M1教室)

講演

「インターネットを使ったレファレンス」

講師 昭和女子大学大学院生活機構

研究科、人間社会学部

教授 大串 夏身 氏

報告

「レファレンス協同データベースの活用法」

国立国会図書館関西館図書館協力課

司書 藤河 正憲 氏

「情報メディアの活用」
「レファレンス協同データベース」

三重大学学術情報部情報図書館

チーム情報リテラシー担当

チーム員 柴田 佳寿江 氏

「レファレンス協同データベースをインフラに」
「福井県立図書館の実践」

福井県立図書館

司書 宮川 陽子 氏

「パスファインダーの活用事例」

京都府立山城高等学校

学校図書館司書 堀 奈津子 氏

交流協議

新任図書館(施設)長紹介

京都市中央図書館

中西 進

同伏見中央図書館

河原 正夫

同醍醐中央図書館

河原 正夫

同 左京図書館

大見 敏之

同 山科図書館

林 邦雄

同 下京図書館

大西 弘二

同 洛西図書館

中原 浩二

向日市立図書館

酒井 英慈

綾部市立図書館

西口 博幸

舞鶴市立東図書館

富永 正

与謝野町立図書館

塩見 裕

京丹後市立図書館

松岡 豊美

京都府立図書館

松田 定

★専門委員会二コース★

◎研修研究委員会

平成十九年六月二十九日(金)に
京都府立図書館で、平成十九年度第
一回研修研究委員会を開催し、今年
度の事業計画について、次のとおり
立案しました。

北部会場

読書ボランティア養成支援事業
(京都府教育委員会委託事業)とし
て、おはなし講座を開催します。

平成十九年十二月上旬

場所 みやづ歴史の館

内容 講演と実演

中部会場

平成十九年十月下旬

場所 京都国際マンガミュージアム

テーマ マンガ文化を知る

内容 館内見学と紙芝居実演

南部会場

平成十九年十一月下旬

テーマ 図書館のPRについて

場所・内容 未定

詳細については、今後検討し、ご
案内をさせていただきます。

◎相互協力委員会

平成十八年度相互協力実務担当者
会議が平成十九年三月八日(木)府
立図書館において開催されました。

主な内容は、子ども読書絵てがみ
コンテストの応募状況。京都府図書
館等総合目録関連では、操作マニユ
アルの説明、システム更新中の南丹
市、木津川市の状況報告。雑誌・新
聞総合目録の更新については、十九
年六月中完了を目指し、各館へ調査
協力依頼がありました。また、連絡
協力車の運行コースについては、平
成十九年度で合併による暫定運行情
間が終了する市町についても、希望
に対し分館等への巡回を年四回程度
実施すること、職員研修について
は、府内三ブロック毎に年四回の研
修会実施計画が報告されました。な
お、連絡協力車の巡回については、
その後、中央館と館長勤務館が異な
ることとなった南丹市と京丹後市に
ついては、中央館に毎週、館長勤務
館へは月一回(府立図書館職員乗務
日)の巡回が決定しました。

◎広報委員会

平成十九年度第一回広報委員会を
六月七日(木)に府立図書館で開催
し、今年度の発行計画と会報第七十
三号の編集等を協議しました。

今年度の発行は年三回とし、

・第七十三号 八月十五日

・第七十四号 十一月十五日(予定)

・第七十五号 三月十五日(予定)

と決定しました。

編集子

広報委員会二年目を迎えて、
交代となった新メンバーで充
実した紙面づくりがんばり
ます。

ところで、どこの図書館で
も線引き、切り取り等利用者
のマナーの悪さに迷惑を受け
ていることと思います。「自分
さえよければ」という考えの
人が多くなっているからでは
ないでしょうか。

利用者全てが、気持ちよく
利用できる図書館にしたいも
のです。